

会員選任制度検討分科会（第1回）議事要旨

1. 日 時：令和7年11月25日（火） 15：00～16：30
2. 場 所：オンライン開催
3. 出席者：宇山 智彦委員、山田 八千子委員、狩野 光伸委員、山口 香委員、市川 温子委員
4. 議事次第
 - （1）役員の選出等について
 - （2）会員選任制度検討分科会の検討事項について
5. 配布資料
 - ・資料1 日本学術会議会員選考の流れ
 - ・資料2 会員選定に係る主な検討事項
 - ・資料3 会員選任制度検討分科会スケジュール（案）
 - ・参考資料1 会員選任制度検討分科会委員名簿
 - ・参考資料2 関連規定整理表
6. 議事概要
 - （1）役員の選出等について
 - ・分科会長の互選を行い、日比谷 潤子委員を選出した。
 - （2）会員選任制度検討分科会の検討事項について（主な意見）
 - （選定助言委員会について）
 - ・選定助言委員は、ジェンダーや世代のバランス等、多様性が必要である。
 - ・選定助言委員を本分科会において選考するかは検討事項である。
 - ・法律も踏まえ、会員候補者選定委員会に選定助言委員会の助言の尊重義務を課すべきではない。
 - （選考の基準・方法について）
 - ・会員に多様性を持たせる方法を検討しなければならない。研究分野別だけでなく、課題別・機能別で選考することも一案である。
 - ・研究分野の中で次の会員を選ぶだけでなく、社会課題への対応が学術会議に強く求められていることを踏まえて会員を選任すべきである。
 - ・候補者選考委員会で議論されている、先端的・学際的な研究分野や、国際活動、社会との接点において顕著な活動を行っている者を選考する部会を置くことについては良い方針である。なお、専門分野が複数あるとそれぞれの専門分野においては低く評価される場合がある点や、現在の学術会議において各部が混ざって議論がしづらい仕組みとなっている点は、検討すべきである。
 - ・「〇〇をするために学術会議の会員になりたい」という意思のある方を会員として選任できるよう、意思を汲み取る仕組みがあると良いのではないか。自ら会員へ

立候補することも考えられる。

- ・次世代に繋ぐ観点から、未来を担う若手を一定数選任する必要がある。
- ・補欠の会員については、通常の会員と同じ選定方針とすべきである。
- ・会員候補者をそのまま承認する形ではなく、意味のある投票をすべきであるが、それを総会で行うか、総会の前の段階で行うかは検討事項である。

(その他)

- ・選定助言委員会の意見や選定方針の作成に関して、透明性を確保することや、選定方針について社会や国民に分かりやすい表現とすることは重要である。
- ・連携会員及び連携会員（特任）の選任方法についても検討すべきである。これまでのように幹事会で決定してから任命となると、活動が遅くなる。
- ・会長・副会長等の幹事会構成員はマネジメントが求められるという点も視野に入れて会員を選任するとともに、会長の互選に当たっては、自薦他薦も含め、社会に向けて学術会議がどうあるべきかという思いを持つ方を会長として選ぶことができる仕組みを考えるべきである。
- ・不当な解任とならないよう解任の手続きは明確に定めておくべきである。
- ・現行の会員選考基準等の問題点について、選考委員会の経験者に話を聞くと良いのではないかな。

(今後について)

- ・本分科会における議論の内容は、長年学術会議に携わった会員ならではの意見もあることから、とりまとめて次期に引き継ぐこととする。

以 上